

CONTENTS COMBAT

2014.Jun.
No.459

6

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover Photo
Fujiwara
©WORLD PHOTO PRESS 2014

※本文中の価格は消費税込みの
総額表示です。



【第1特集／ミリタリー】

008 The Equipments of the U.S. Force
[現用米軍装備カタログ] 第117回

NAVY SEALS 2001-2005年 装備特集 Part.2 MBSS特集

●解説:松原隆 ●撮影:山崎 学

036 月刊 自衛隊「ニッポンのちからこぶ」
剛健三十二連隊!!

●取材:菊池雅之

062 New Generation Styler
UOC Vol.3

●Fujiwara

076 The Command
From POLAND Vol.2

●author:Pig-marble

085 Militaria Roundup!
WWII ドイツ軍外人部隊 Part.1

●解説:菊月俊之

【第2特集／トイガン】

018 東京マルイ
GAS BLOW BACK AIR SOFT GUN

●Photos:Taku
●Text:斉藤直樹

024 WESTERN ARMS
REMINGTON UMC 1911 &
BERETTA M84FS ULTIMATE HW

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

029 WESTERN ARMS
M4A1 FULL METAL CUSTOM

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY



130 Custom ToyGun Corner
MARUZEN M1100
PRIVATE CUSTOM PartII

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

040 【第3特集／実銃】
SHOT SHOW 2014
SHOOTING DEMO
MEDIA DAY SHOOTING &
WILCOX SHOOTING DEMO

●Photos & Text by Tomo Hasegawa

004 COMBAT FRONT LINE

054 Goods & Accessory

072 世界の兵士図鑑

軍用潜水装置

●イラスト・解説:坂本 明

082 兵装嗜癪

●by Fujiwara

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:織本知之

096 PRESENT

138 トイガンニュース

138 WA コルトM1911 U.S.アーミー〈アルティメット・コレクション〉

139 WA コルト・コンバット・コマンダー〈アルティメット・コレクション〉

140 WA タッシー・カスタム／ステルス・コンプ〈コマンダーVer.〉

141 KJ WORKS HYBRID SNIPER RIFLE HAWK EYE

142 monoショップ新聞

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

097 GAME OVER THE TOP

100 新連載!

ふれんどりっファイヤー! ●栗橋伸裕

ミリタリー雑学講座

108 A STITCH IN TIME

112 GEAR CUSTOM WORKSHOP

PROJECT NINJA ●Tokyo Equipment Stupid

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 蛙のゆびさき(中山 蛙)

120 物欲ワンホール

ROUND 32:ナイフを使おう 楽しいワイルド野外クッキング

トイガンズジャンクション

バックナンバーリスト

162 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!?]

164 レア・ミリタリー・テクノロジー

168 シューティングマッチ アンリミテッド2014

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 ザ・ビクトリーショー

173 ASGKフェスティバル

174 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記



The Equipments of the U.S. Force

[現用米軍装備カタログ] 第117回

NAVY SEALS

2001-2005年装備特集

Part.2

●解説:松原 隆 ●撮影:山崎 学
●協力ショップ:LAZY CAT <http://lazycat.jp/> Gamis <http://www2.ocn.ne.jp/~gamis/> Tri.S(旧・特小工房) <http://tri-ss.com/>
MILITARY TOKYO <http://www.militarytokyo.com/> てっぼう天国トライアンフ <http://www.neconote.jp/triumph/hp/> トイソルジャー&FMA
●参考資料:US NAVY <http://www.navy.mil/> SEALミュージアム <https://navysealmuseum.com/>

実際のSEALS画像を参考に装備を組んでみよう!

1990年代は今のようなスマートフォンやデジカメが普及していなかったため、戦場のリアルな画像や動画は少ない。戦場カメラマンがたまたま写したSEALS隊員の写真以外はプロパガンダ的な宣伝映像や訓練風景だけだった。ところが

2000年に入ってくるとGoProやiPhoneなど、デジタル録画機器が個人的に持ち込まれ、リアルタイムな戦闘風景が一気にネットで流出されるようになった。SEALSなどの特殊部隊作戦映像も以前は規制があったものの、自分の部隊や活

躍を個人的に記録する者が後を絶たず現在に至っている。またインターネット戦死者メモリアルで検索すると顔出しNGだったSEALS隊員も亡くなった隊員達とともに顔と着用していた装備品まで閲覧することができる。'90年代からコレク

ションしている筆者としては装備資料がそろそろ嬉しさがある反面、これら資料が遠く離れた戦場で亡くなった隊員達の御蔭であることに哀悼の意を捧げたい。

01 2004~05 NAVY SEALS



アリイド製 MBSSプレートキャリア装備

2000年に支給が開始されたSEALSの代表的なM4A1カービン銃CQB-R (Close Quarter Battle Receiver) を持つ隊員。装備は臨検作業VBSS (Visit, Board, Search, and Seizure) と思われる。
[Photo : U.S.NAVY]

TOKYO MARUI / GAS BLOW BACK AIR SOFT GUN

Photos : Taku Text : 齊藤直樹
 ©東京マルイ
 ☎03-3605-3312
 http://www.tokyo-marui.co.jp/

HK45

特殊部隊などの現場の要求に応えた逸品
 HK45を東京マルイが満を持して製品化
 発売されたばかりの
 最新モデルを徹底リポート！



HK45

- 全長:204mm
- 銃身長(インナーバレル長):100mm
- 重量:782g(空マガジン装着時)
- 装弾数:26+1発
- 価格:1万8144円

実銃のフォルムやサイズを忠実に再現。独特の機能をもつセフティレバーや、左右両方に備えられたスライドストップなど、機能性にこだわった実銃の作動パーツも機能込みで製品に取り込んでいる。

前号で完動試作品による速報リポートをお送りした、東京マルイの新作ハンドガン、HK45。実銃はドイツならではの高い品質と機能性にこだわるクラブマンシップで、同国を代表する銃火器メーカーとして名を馳せる、H&K社の傑作ハンドガンだ。

「妥協しない」をスローガンに耐久性、信頼性、命中精度の高い銃器を多数生み出し、イギリスの突撃銃SA80や、アメリカの突撃銃M4の改修を任されるなど、世界各国からも信頼をおかれ、多くの特殊部隊での採用実績を持つH&K社が、米軍特殊部隊デルタ・フォースで数多くの作戦に参加した経験を持つラリー・ヴィッカーズを中心に、多くの元・現役特殊部隊隊員の意見を反映して生み出したのが、「戦う現場の道具」としての高い実用性を追求したHK45なのだ。

2005年にU.S.SOCOM(アメリカ特殊作戦軍)が行なったM9の後継拳銃選定トライアルにエントリー。ベレッタ

Px4、シグザウエルP220、グロック21と争うこととなったが、当のコンペ自体が凍結されたまま現在に至っている。だが、その性能はさまざまな方面で認められ、アメリカ海軍SEALSの装備として採用されている。

そんな「プロの道具」として突き詰められた銃の魅力を、東京マルイはどのように製品化したのか？ 前号の完動試作品レポートに続き、今回は発売されたばかりの量産モデルの試射を通してその実力に迫ってみよう。

実銃を細部に至るまで忠実に再現したという本体は、その質感・重量感ともに実にリアルな仕上がりとなっている。銃を取り出す際の引っかかりをなくすために角を落としたフォルムも完璧で、ホルスターはもちろん、刑事ドラマ風にズボンの後ろポケットなどに差した状態からの取り出しでも、スムーズに引き抜くことができた。ホワイト入り3ドット・ポイントのロープロファイル・フロント&リアサイトも備

えられており、目標を捉えるための視認性も良好。実銃の持つ実戦的な雰囲気、たっぷり味わうことができる。

マットブラックで仕上げられたスライドは重量感あふれる仕上がりで、ブローバック時の滑らかな動きと重みのある作動音が、部品精度の高さを感じさせてくれる。連射時でも動作にブレはなく、後述の大型ピストンから生み出されるパワーを、ガッチリと受け止めて安定動作させる品質の高さを使い込むほどに感じられる。実銃に込められたドイツ・プロダクトらしい品質の高さを、ガスガンでもきっちりと感じさせてくれるいい仕事だといえる。

実際に撃つ際でもっとも重要な部分といえるのがグリップだ。「スパイダーマングリップ」と呼ばれる独特のディテールを持ったグリップも、中指から小指にかけての指3本が収まるグリップチャンネルが施されているので、握り込んだ際のフィット感が実に絶妙だ。グリップに施されたチェッカーリングも、

SHOOTING DEMO

MEDIA DAY SHOOTING & WILCOX SHOOTING DEMO

Photos & Text by Tomo Hasegawa



“試写会”は映画。

“試乗会”はクルマ。

“試打会”はゴルフ製品の試し打ち。

いずれも作品の公開前や発売前に試してもらい、魅力や特徴をPRしようというもの。

一方、銃器業界における「試し撃ち」は“試射会”となるわけだが、ありそうでなさそうなイベントが実際に開催されている。それがシューティング・デモだ。

毎年1月に開催される銃器業界の見本市“ショットショー”。その開催前日に試射会が行なわれているのだ。

素材の質や加工、仕上げの程度などから製品のある程度のことは判るとしても、見ているだけでは判らないことが多い。パワーや命中精度、さらに反動の大小や扱いやすさなど、銃というのは陳列された製品に触っているだけでは本来の性能がなかなか想像しにくい。カタログにスペックを並べても、カッコいいVTRを作ったとしても、なかなか伝えられるものではない。しかし、実際に撃ってみれば一目瞭然、百聞は一撃にしかず……。というわけで、実際に撃ってもらうことで、各社の新製品や性能がダイレクトにPRできる。華やかな展示もイイものだが、得られる情報の濃度からすると、むしろこちらが「本番?」ともいえるショットショー裏リポート。それがシューティング・デモだ。

KEL-TECHa:KSG

ケルテック社のブルバップショットガン “KSG”。ストック部分に機関部があるため、バレルと7発装弾できるロングマガジンを備えていても全長はコンパクト。さらに、マガジンチューブが2本あって、合計14発装弾可能。1本には00バック弾、一方にはスラグ弾と異なるカートリッジを装備することも可能。新コンセプトがいかにケルテックらしい。キックは強めに感じられるが、軽量で扱いやすい。

MARUZEN M1100 PRIVATE CUSTOM Part II



アクセサリー・レール

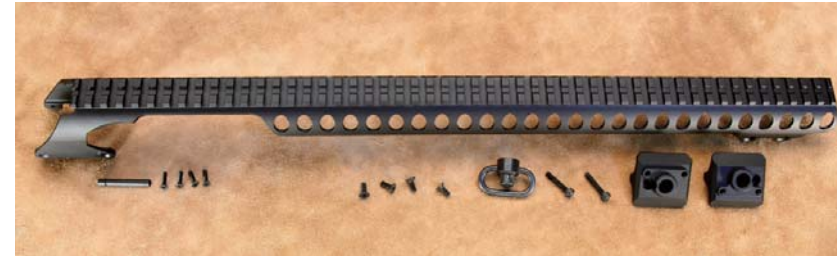
“タクティカル系カスタム”といえばアクセサリー・レール。これがなくては話しにならない。トイガン用の輸入パーツの中に、いくつかのバリエーションがあるので、それらをM1100に組み込んでみよう。



M870用として市販されているミドル・サイズのアクセサリー・レール。専用のバレル・リングとレール・ブロックで固定する。取り付けはいたって簡単だが、フォアグリップを少し加工しなければならない。



マルゼン純正の“M1100メタル・カスタム”にセットしてみた。加工部分は、フォアグリップの後部、バレル・リングをセットするあたりだ。内側の加工は必要ないが、干渉する部分を少し削り取らなければならない。レールのフロント部分は、付属のブロックでバレルとの隙間を埋め、しっかりと固定する構造だ。



ショットガン用アクセサリー・レール“ロング・タイプ”。フレーム部分をレシーバー・ピンとレシーバー・スクリュー、フロント部分を付属の専用スウィベル・ベースで固定する。現在は、フロント部分のデザインを変えた“ヘビー・タイプ”のバリエーションもある。



ショットガン用“バレル・スリング・マウント”。スチール製の丈夫なパーツだ。バレルとマガジン・チューブを挟み込んで固定する。M1100、各社のM870他、色々なショットガンに適合する。



ショットガン用“バレル・マウント・スリング・スウィベル”。バレルとマガジン・チューブを挟み込む、ブロック・タイプのスリング・スウィベル・ベース。スィベル・リングはワンタッチ着脱式で、左右の付け替えができる。



ロング・タイプのアクセサリー・レールをセットしたマルゼンのM1100。かなりモノモノしい外観になる。いかにもタクティカル系カスタムというイメージだ。

さて、今回「マルゼンM1100プライベート・カスタムPart. II」では、現在市場にあるショットガン用パーツを利用したカスタムをご紹介しよう。「Part. I (2014年5月号)」同様、「M1100用」として販売されているものはない。「M870用」、もしくは汎用の「ユニバーサル・パーツ」だ。パーツ・カタログなどを見ても、M1100に転用可能なかどうか、なかなか判断できないが、少なくともここに紹介するパーツは実験済みなので、多少の工作技術があれば利用できる。ただし同じ種類のパーツでも、個体ごとのバラ付きがあるので、すべてが完全にボルト・オンというわけにはいかない。パーツによっては、多少の調整が必要になるものもあるので、その点は覚悟しておこう。

なお、今回も輸入パーツ中心で、販売価格は取扱いショップによって異なる。個々の入手価格は表記しないので、欲しいと思った人は自力で調べてほしい。

補足



マルゼン製のM1100(上)とM870(下)は、アウター・レシーバー直前部分の形状が異なる。



マルゼンが用意している各モデルの展開図とパーツ表。修理用のパーツが必要な人は、電話でマルゼンに問い合わせてみよう。

上の写真は、「Part. I」で掲載したものだが、説明がなかったのでここで補足する。これはマルゼンのM1100とM870を比較した写真で、上がM1100、下がM870だ。アウター・レシーバー直前部分が大幅に異なる。この違いのため、M870用のフォアグリップをM1100に転用する時は、フォアグリップ内部の加工が必要。加工の手順は、「Part. I」で紹介したとおりだ。写真下は、マルゼンから提供していただいたM1100、M870の展開図とパーツの価格表。「Part. I」では、パーツ単位の販売が行われていないとお伝えしたが、マルゼンではこれらの資料を用意しており、パーツ単位の販売も行なっているそうなので、ここに補足するとともに訂正させていただく。

パーツの購入を希望する人は、まずマルゼンに電話をし、モデルに合わせたパーツ表を送ってもらう。次に、やはり電話でマルゼンに必要なパーツの在庫と送料を確認。パーツの在庫が確認できたら、現金書留で代金を送るという手順だ。

※プライベート・カスタムは、外装を中心にするのが基本です。発射機構に手を加えると、ガス漏れ、作動不良、パワー変化などの大きな障害が発生する可能性があります。同時に、カスタムは100パーセント個人責任であることを理解しておきましょう。手を加えた製品は、メーカーでの修理、メンテナンスを受けられません。